

人体機能学Ⅰ		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	12311103 12531205

1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の機能学（生理学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、生理学の基本を学ぶことから始め、その後は、骨や筋の生理、栄養と代謝、体温調節、神経および運動の機能について学習する。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な人体の働きについてはその機能を図示し、生理学的特徴を記入した「人体機能学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス 生理学とは①（細胞の構造と機能，組織・器官と生体の機能系）	9. 栄養と代謝②（栄養素の代謝，食物と栄養）
2. 生理学とは②（生体の恒常性と統合機能，体液の区分と組成）	10. 体温とその調節（体温，熱産生，熱放散，体温調節，気候順化，発熱とうつ熱）
3. 血液①（血液の成分と組成，止血）	11. 神経の生理①（神経信号の伝達，神経系の構成）
4. 血液②（血液型，免疫）	12. 神経の生理②（脳の高次機能，内臓機能の調節）
5. 骨の生理（骨の構造，骨の成長）	13. 運動の生理①（運動の調節，運動神経と運動単位，脊髄による反射とその調節）
6. 筋の生理①（骨格筋）	14. 運動の生理②（脳幹による運動調節，高次運動機能）
7. 筋の生理②（心筋，平滑筋）	15. まとめ
8. 栄養と代謝①（生体に必要な栄養素，エネルギー代謝）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体機能学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削，採点を行った上で返却する。また，定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では，生理学的な特徴をただ暗記するだけでなく，その機能と病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30％程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70％程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『生理学 改訂第4版』，南江堂，2020年
その他の参考資料は，必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。